

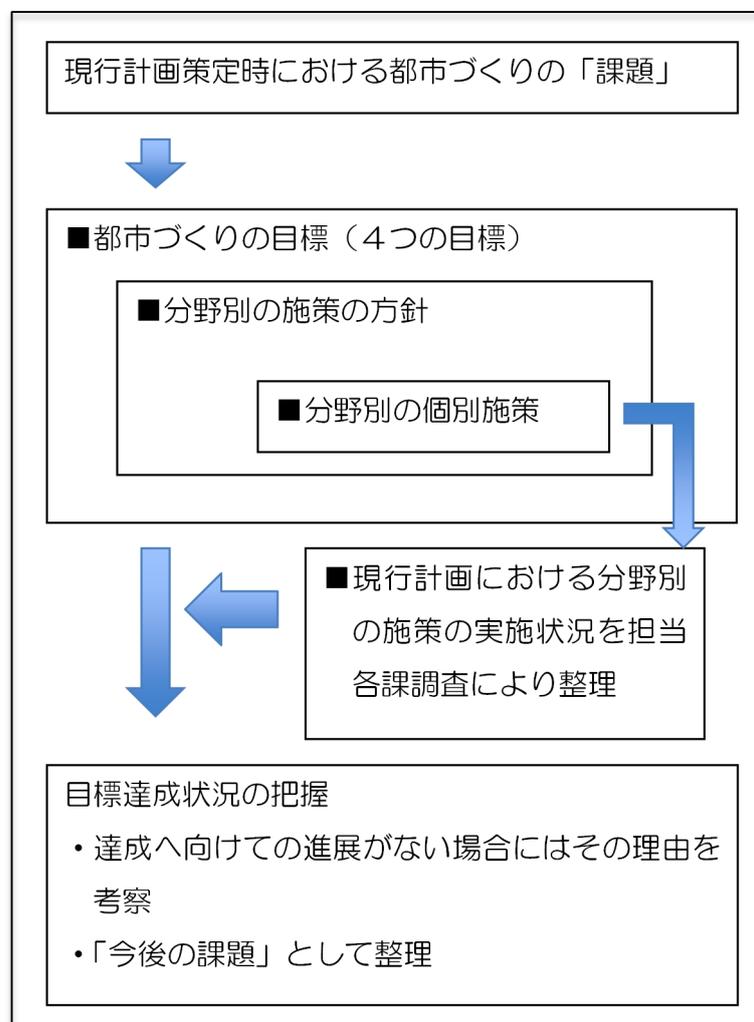
I 上半期の実績把握と評価

1. 評価の考え方

ここでは、現行都市計画マスタープラン（以下「現行計画」という）のスタートから計画期間の上半期にあたる約5年間を経た現時点における実績の把握と評価を行います。

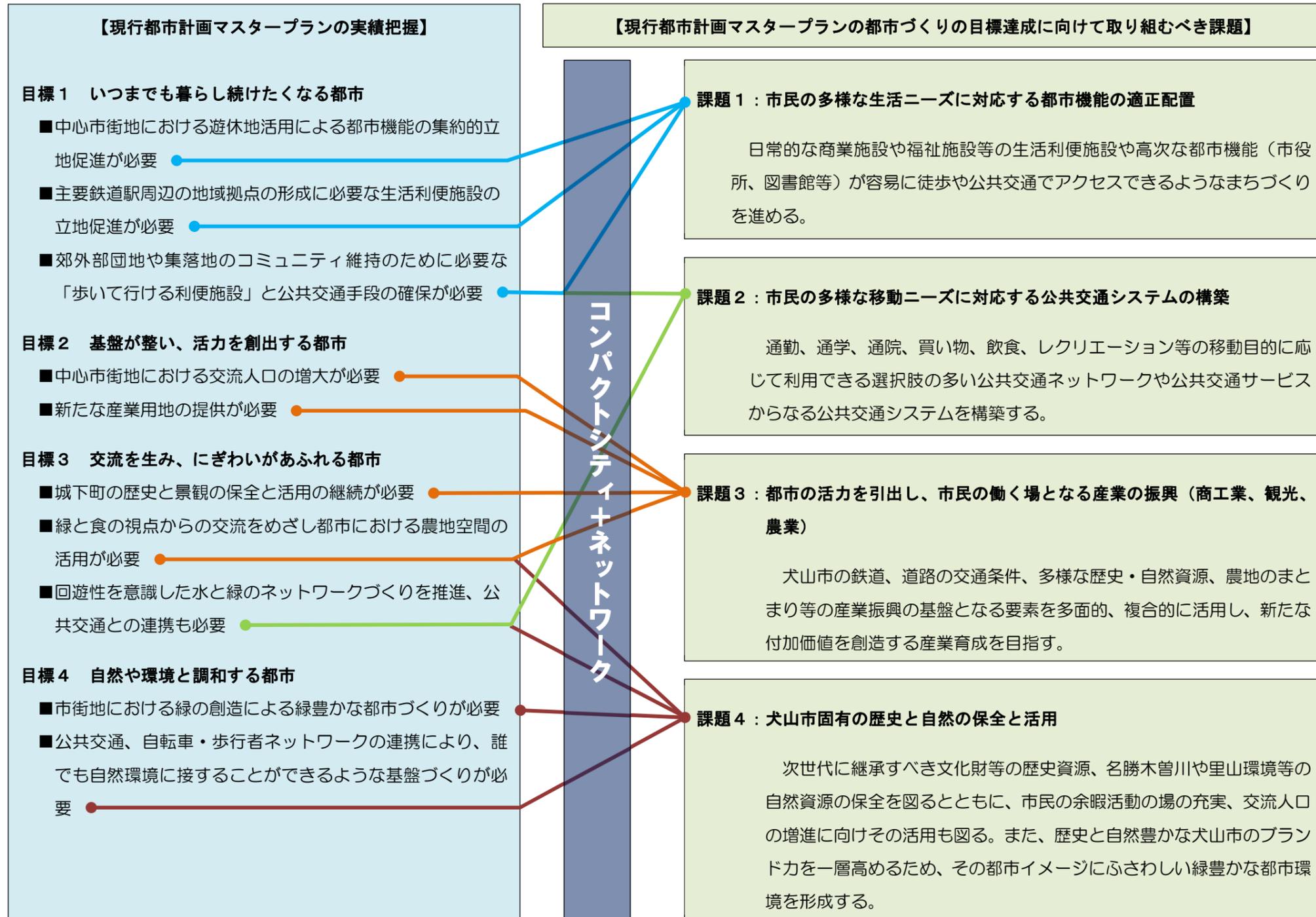
評価にあたっては、現行計画における「都市づくりの目標」「方針」とその背景となる「課題」に照らし、施策の実施状況がそれらの目標達成へ向けてどう成果を挙げているか、挙げていない場合にはその理由を考察し、課題整理を行うこととします。

図 上半期の実績把握と課題整理の手順



2. 上半期の実績把握と今後の課題

現行計画のスタートから計画期間の上半期にあたる約5年間を経た現時点における実績の把握を行いました。その結果とともに、国が示す今後のまちづくりの基本的考え方である「コンパクト+ネットワーク」のまちづくりを意識しつつ、今後に残された課題を整理すると以下のとおりです。



3. 犬山市の都市構造上の課題

【都市形成過程のまとめ】

- 都市の成り立ち・・・犬山城下町を核、木曾街道・稲置街道を軸に集落地が連坦
- 交通体系の形成経緯・・・木曾街道・稲置街道に沿って現在の道路・鉄道網を敷設
- 市町村合併経緯・・・昭和の合併で1町4村が合併、現在の地域区分もこれを踏襲
- 主な市街地開発・・・北部市街化区域で一部区画整理、民間開発は東部の農地・丘陵地
- 人口集中地区の拡大経緯・・・昭和40年代に急速に拡大、人口密度の低密度化



【都市構造の現状把握のまとめ】

- 人口の経年変化・・・社会増減が微増となり、人口は減少傾向
- 地区別人口・世帯数・・・古くからの既成市街地・住宅団地では人口減少、空洞化が進行
- 高齢化の動向・・・古くからの既成市街地・住宅団地では高齢化が進行
- 土地利用の現況・・・市街地の分散的拡大が依然として継続
- 新築・開発許可の状況・・・市街化調整区域の分散的宅地化も継続
- 空地・空き家の分布状況・・・近年、空き家が増大
- 公共交通利用・・・鉄道は近年は微増、コミュニティバスの利用者数は増加
- 市民の利用交通手段・・・市民の車利用は依然として増大、徒歩・自転車は減少
- 生活便利施設の立地状況・・・市街化調整区域の住民は利用不便
- 経済活動の状況・・・商業機能の弱体化が進行、活力不足
- 災害履歴・災害予想区域での住宅立地・・・災害危険個所でも住宅立地が進行
- 財政状況・・・都市整備関連の財政は今後厳しくなる見込み
- 市民の移転意向・・・15%の市民が生活不便を理由に転居希望を示す

コンパクトシティ+ネットワーク

課題1：都市の生い立ちを踏まえた市民生活圏の再構築

車社会を背景に広域化した市民の生活圏を、日常生活圏については地域コミュニティの歴史を踏まえて身近な生活圏として再構築する。

課題2：低下傾向にある都市活力の活性化

生活不便さがもたらす居住地としてのマイナス評価を克服し、犬山市の居住地としてのブランド力を高める。また、商業、観光、交流機能の強化、新規産業の誘致により都市の経済力アップを図る。

課題3：継続する住宅や事業所等の分散立地の抑制、駅周辺等への集約化

市街化調整区域で依然として継続する分散的宅地化を抑制し、都市基盤施設ストックの効率的利用を高める。また、新規立地の住宅や商業施設等の集約化を図ることで車に頼らずに生活できる生活圏を構築する。

課題4：市内に広く分散して居住する市民の暮らしやすさの確保が必要

すでに市街化調整区域に分散的に居住する市民の生活利便性（買い物、通院、交流等）を一定程度確保するために、既存ストック（空家等）を活用し、人口密度の維持を図る。

課題5：車を利用できない市民の移動を支える交通システムの構築

地球環境への貢献や交通弱者の市民の移動を支える公共交通及び歩行者・自転車交通ネットワークを構築する。

課題6：都市基盤施設の整備・管理の費用削減

長期未整備となっている都市計画道路等の都市基盤施設の整備計画を見直し、犬山市の将来の都市規模、財政規模に見合った整備水準、計画水準とする。また、維持管理のコスト削減に向けて計画的保全を進める。

ここでは、犬山市の都市が形成されてきた経緯を近代以前まで遡って振り返るとともに、都市の現状データからみた問題や課題を抽出するとともに、「コンパクト+ネットワーク」の実現という新たな課題も踏まえた都市づくりの課題を整理します。

4. 今後のまちづくりの課題のまとめ

以上までの調査結果を総合し、犬山市の今後のまちづくりの課題を整理すると以下のとおりです。

コンパクトシティ＋ネットワーク

課題1：犬山市民の暮らしの持続性を高め、また、市の財政規模に見合った都市構造とするには市街化調整区域まで広がった分散的居住形態から鉄道駅やバス路線へのアクセスに優れた地区（既存の都市機能、都市施設が活用可能な新市街地地区も含む）への**集約的居住形態への転換が必要**。

課題2：集約的居住形態を背景として、車を利用しなくても生活できる**身近なところに生活利便施設がある**街をつくる必要がある。

課題3：高齢者も、子育て世代も、誰もが安心・快適に暮らし続けることができる生活の場、交流の場として地域の歴史の中で生まれ現在も継続する地縁的コミュニティを基本として**身近な生活圏の再構築**が市街化区域及び市街化調整区域において必要。

課題4：地球環境への貢献や、都市の住民の移動可能性を高めるためにも、市民誰もが色々な目的で移動する場合、**車に頼らず移動できる**公共交通や歩行者自転車ネットワークの構築が必要。

課題5：犬山市の経済力を高めるため、犬山固有の歴史と自然の魅力を一層磨いて**交流人口の増大、交流産業の振興**を図ることが必要。また、国道41号の6車線化により高まる道路交通条件を生かして**新規産業の誘致、創出**が必要。